

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式						
		経営組織論特研Ⅰ (Organization Theory Advanced ResearchⅠ)							対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態					
コア科目		2	1、2	経済学研究科 博士前期	後期	月3	日本語			単独					
担当教員	氏名 本谷るり														
	E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7707														
授業の概要	経営学全般と経営組織論の知識を深め、理論を応用し、実社会に活用できる能力を身につけることを目指しています。 企業組織に対するさまざまな側面からの理論や分析視点を獲得することに加えて、受講生各自の視点や考えを出し合い、共有し、議論を深めることによりそれらを達成します。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1 経営組織論のさまざまな理論の習得								○							
目標2 理論を活用し企業を分析する視点の習得								○		○					
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
							各DPへの関連度 (計10)		5		5				
授業の内容															
1 ガイダンス(講義の進め方、準備するものなどの説明をします)															
2 経営学、経営組織論の枠組み															
3 経営組織論の流れ(1)古典的組織論															
4 経営組織論の流れ(2)近代的組織論															
5 組織均衡															
6 組織の構造(1)3つの基本形															
7 組織の構造(2)ネットワーク、チーム															
8 組織文化、経営理念															
9 組織と人(1)モチベーション															
10 組織と人(2)リーダーシップ															
11 組織と人(3)インセンティブシステム															
12 コンフリクト															
13 組織学習、組織の知識															
14 組織成長のモデル															
15 組織と社会															
ラ イ ク ニ テ ィ グ ラ フ	A:知識の定着・確認		○	積極的に討論に参加するようにしてください。				工 夫	そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換		○												
	C:応用志向		○												
	D:知識の活用・創造		○												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		あらかじめ該当する文献を読み、課題を提出してください(30h)。 報告担当者はレジュメや配付資料の準備をしてください(1h)。												
	事後学修		授業でのディスカッションをもとに課題を復習してください。さらに、参考文献を紹介しますので、興味があるものについてはぜひ読んでみてください(15h)。												
	想定時間合計		46												
教科書		用いる文献については授業開始1か月前をめどに掲示します。 使用する文献によって、講義内容の順序が変更する場合があります。													
参考書		講義中に適宜お知らせします。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レジュメ作成と討論の内容		50%	○									
	期末レポート		50%	○	○								
積極的に講義の議論に参加してください。													
注意事項	毎回の授業でのプレゼン担当者を決め、レジュメを作成し内容について報告・説明してもらう形で進めます。担当者は授業の前半では内容を説明し、ポイントとなることをまとめてください。さらに疑問点や内容に関するコメントも記載してください。後半はそれらをもとにして受講生全員で討論を行います。												
備考	※令和2年度までに「経営組織論特研」を受講済みの方は、受講できません。												
リンク													
	URL												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
KC20M203		企業ファイナンス論特研 (Corporate Finance Advanced Research)							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	1.2	経済学研究科 博士前期	後期	月6	日本語		単独						
担当教員	氏名 鵜崎 清 貴													
	E-mail 内線													
授業の概要	「企業ファイナンス論特研」は、企業ファイナンスの基礎を学びます。本講義では、「評価」を学びます。 「評価」とは、あるプロジェクトを実行するのか、買収するのかを、経営者がいかに決定するか、ということです。この決定のためには、「資本予算」、「投資」、そして「資本構成」の主要な問題を考察する必要があります。 本講義は、将来、銀行・証券会社などの金融機関または企業（財務・会計担当）に勤たい学生や国家試験受験の学生には、有益です。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	企業ファイナンスの基礎を学ぶ							○						
目標2	ExcelやRで会計数値を計算することができる								○	○				
目標3	得られた会計数値を分析することができる								○	○				
目標4	実際の企業に応用することができる									○				
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度 (計10)								2	3	5				
授業の内容														
1	イントロダクション													
2	貨幣の時間価値													
3	資金調達 株式と社債の評価													
4	資本予算													
5	債権の利回り1													
6	債権の利回り2													
7	不確実性とリスク													
8	リスク回避と資産の収益性													
9	期待収益率とリスク													
10	ポートフォリオ理論													
11	ポートフォリオ理論2													
12	資本資産評価モデル(CAPM)1													
13	資本資産評価モデル(CAPM)2													
14	M&A													
15	コーポレート・ガバナンス													
ラーニング目標	A:知識の定着・確認	○	日経新聞やWSJの記事に関し、ファイナンスの立場から議論を深める。				工夫その他の	ハンドアウトを毎回配布し、課題を解答する						
	B:意見の表現・交換	○	実際の会計数値を用いて、分析を行う。											
	C:応用志向	○	実際の企業にファイナンスの理論を応用し分析する。											
	D:知識の活用・創造	○												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	日経新聞やWSJを読み、課題を発見する。												
	事後学修	課題を解答する。												
	想定時間合計	45												
教科書	Welch, Ivo, 2011. Corporate finance an introduction 2nd Edition (Prentice Hall) 資料は、Moodleから各自プリントして、講義に参加して下さい。 鵜崎清貴 (2022) 『Rによるコーポレートファイナンス入門』													
参考書	市村昭三編『財務管理論』創成社出版,1995年 坂本恒夫・文堂弘之『成長戦略のための新ビジネス・ファイナンス』中央経済社, 2007年 古川浩一・蜂谷豊彦他『基礎からのコーポレート・ファイナンス』中央経済社, 2005年													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業内での発言		20%	○									
	課題・レポート		30%		○	○							
	期末テスト		50%		○	○							
注意事項	以下の要件が必要です。 1. 算数（電卓を用い，計算します） 2. Excel，E-mailそしてWebを利用します。 3. 会計そして統計学の初歩知識。講義の中でも説明します。												
備考	企業における財務担当者または公認会計士・税理士・証券アナリスト等を目指す生徒にとって有効な講義です。												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の 有無	○												
教員の実務 経験	公認会計士事務所顧問，金融機関の非常勤監査役												
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
		経営組織論特研Ⅱ (Organization Theory Advanced Research Ⅱ)												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	1、2	経済学研究科 博士前期	前期	月6	日本語		単独						
担当教員	氏名 本谷るり													
	E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7707													
授業の概要	経営組織論を基礎に、組織変革の実態と理論を文献と事例研究から学びます。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1 経営組織の変革に関わる知識の修得、理論の理解								○						
目標2 理論を活用し組織を分析する視点の習得										○				
目標3														
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								5		5				
授業の内容														
1 ガイダンス、経営組織論の枠組みの確認														
2 経営組織の変革モデル(1)組織の発展モデル、ライフサイクルモデル														
3 経営組織の変革モデル(2)エコロジーモデル														
4 経営組織の変革モデル(3)戦略との関係														
5 組織文化の変革(1)組織文化の機能と逆機能														
6 組織文化の変革(2)シャインの変革モデル														
7 組織学習(1)安定と変革														
8 組織学習(2)変革の阻害要因														
9 長期的発展モデル														
10 組織化モデル(1)組織と組織化														
11 組織化モデル(2)多様性とその削減														
12 組織化のジレンマ														
13 組織の継続と変革(1)老舗企業の組織変革														
14 組織の継続と変革(2)均衡														
15 組織の協働形態														
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認		○	毎回レジュメを作成することにより、内容の理解に努めてください。授業時には積極的に討論に参加するようにしてください。					工夫その他の					
	B:意見の表現・交換		○											
	C:応用志向		○											
	D:知識の活用・創造		○											
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		1回の授業で1～数本の文献を使用します。それらを読みレジュメを作成の上、参加してください。毎回2～3時間程度(30～45h)。											
	事後学修		授業でのディスカッションをもとに、内容を復習してください。さらに関連する参考文献を紹介しますので、興味があるものについてはぜひ読んでみてください。毎回1時間程度(15h)。											
	想定時間合計		45											
教科書	用いる文献についてはガイダンスの際に提示します。													
参考書	各回に用いる文献のほかに、関連する参考文献を提示します。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	毎回のレジュメ作成		50%	○									
	討論への参加とその内容		50%	○	○								
内容の理解に努め、積極的に討論に参加してください。													
注意事項	経営学関連の各講義と経営組織論特研Ⅰを履修済みの方にお勧めします。												
備考													
リンク													
	URL												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式					
		マーケティング論特研Ⅰ (Marketing Theory Advanced ResearchⅠ)							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
コア科目	2	1,2	経済学研究科 博士前期	前期	火6	日本語	英語	単独						
担当教員	氏名 松隈久昭													
	E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680													
授業の概要	マーケティング理論の理解と応用分析が中心となる。また、マーケティングリサーチ、ケース分析により、理解を深める。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	マーケティングの基礎的理論を説明できるようになること。							○						
目標2	講義内容のディスカッションができること。								○					
目標3														
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								7	3					
授業の内容														
1	マーケティング理論の理解(1)理論													
2	マーケティング理論の理解(2)事例研究													
3	製品政策(1)理論													
4	製品政策(2)事例研究													
5	価格設定(1)理論													
6	価格設定(2)事例研究													
7	流通政策(1)理論													
8	流通政策(2)事例研究													
9	プロモーション(1)理論													
10	プロモーション(2)事例研究													
11	消費者行動(1)理論													
12	消費者行動(2)事例研究													
13	マーケティングリサーチ(1)理論													
14	マーケティングリサーチ(2)事例研究													
15	事例研究とまとめ													
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認	○	受講生はレポートを作成し、教員はそのサポートを行う。				工夫その他の	マーケティングに関する時事問題については、資料を配付する。						
	B:意見の表現・交換	○												
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。(30h)												
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べること。また、それらの事例に関する現状と課題を示すこと。(20h)												
	想定時間合計	50												
教科書	初回の授業時に示します。 受講する方は、必ずテキストを入手してください。													
参考書	Malhotra, N. K., Marketing Research , Prentice Hall, 2003													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート		100%	○									
場合によっては、遠隔授業にする場合があります。													
注意事項	統計学を履修済みであることが望ましい。												
備考	初回のガイダンスに参加してください。 場合によっては、ZOOMでの授業（オンデマンドを含む）になる場合があります。												
リンク													
	URL												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式					
KC40M207		経営戦略論特研Ⅱ (Management Strategies Advanced Research Ⅱ)												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	1、2	経済学研究科 博士前期	前期	木3	日本語		単独						
担当教員	氏名 仲本 大輔													
	E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714													
授業の概要	本講義は、経営戦略論特研Ⅰで習得した、経営戦略に関する様々な視座をふまえ、企業が直面している経営上の諸課題とそれらに対する企業の動きを考えていきます。本年度は、以下に示した文献の輪読をしつつ、ビジネス雑誌等で最新の情報も収集し、また関連する論文も読んでいくことで、環境変化に対応する企業の経営戦略のあり方を共に考えていくこととします。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1 専門書や論文を読むことにより、企業の経営戦略はいかに変容していくのかを考えることができるようになる。								○		○				
目標2														
目標3														
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度 (計10)								9		1				
授業の内容														
1 ガイダンス														
2 テキスト・論文の輪読														
3 テキスト・論文の輪読														
4 テキスト・論文の輪読														
5 テキスト・論文の輪読														
6 テキスト・論文の輪読														
7 テキスト・論文の輪読														
8 テキスト・論文の輪読														
9 テキスト・論文の輪読														
10 テキスト・論文の輪読														
11 テキスト・論文の輪読														
12 テキスト・論文の輪読														
13 テキスト・論文の輪読														
14 テキスト・論文の輪読														
15 テキスト・論文の輪読														
ラーニング目標	A:知識の定着・確認				☐	随時、輪読しているテキストや論文に関連する企業等の事例を取り上げ、経営戦略論等で示されている理論枠組みからどのような分析や考察ができるのか、ディスカッションします。				工夫その他の				
授業時間外学修内容 と想定時間	準備学修		毎回、論文1本分かテキスト1章分を読んでいきます。報告者を含め、全員読んでください(各回2h)。											
	事後学修		毎回、復習をしてください(各回1h)。											
	想定時間合計		45											
教科書	ポストンコンサルティング編(2024)『BCGが読む経営の論点2025』日経BP、ISBN:978-4296002238、または、A.T.カーニー編(2024)『A.T.カーニー 業界別経営アジェンダ 2025』日経BP 日本経済新聞出版、ISBN:978-4296120888、のどちらかを考えています。他に、関連する論文を数編取り上げる予定です。													
参考書	適宜紹介します。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点		80%	○									
	期末レポート		20%	○									
注意事項	経営戦略論特研Ⅰを履修済みか、経営戦略論に関する基礎的な知識をすでに習得していることがのぞましいです。												
備考	受講者との相談の結果、取り上げるテキストを変更する可能性もあります。												
リンク													
	URL												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式									
KC40M204		経営管理論特研Ⅰ (Business Administration Advanced ResearchⅠ)							対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	1、2	経済学研究科 博士前期	前期	木6	日本語			単独								
担当教員	氏名 松谷 葉子																	
	E-mail matsutani@oita-u.ac.jp 内線 7694																	
授業の概要	実際に経営するということはどういうことなのか。マネジメントとは何か？ 実例を元にディスカッションするとともに、「マネジメント」「経営すること」について考えます																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1 適切な事例を抽出することができる										○	○							
目標2 事例に対して、経営的観点から考察することができる										○	○							
目標3 自身の考えをまとめ、ディスカッションの題材として提供することができる										○	○	○						
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度 (計10)										4	4	2						
授業の内容																		
1 ガイダンス (講義の進め方などを解説)																		
2 ビジネスモデルの要素																		
3 ターゲットと価値																		
4 事業領域とターゲット																		
5 ターゲットを再考する																		
6 顧客構造を考察する																		
7 顧客とコミュニケーション																		
8 事業領域とコミュニケーション																		
9 価値創造																		
10 収益モデルを考察する																		
11 収益モデルとコミュニケーション																		
12 「成功」の定義																		
13 デザイン思考																		
14 事業マネジメント																		
15 プレゼンテーションと評価																		
ラーニング エビ デンス グ	A:知識の定着・確認		○		事前準備の上、講義にのぞみ、積極的に討論に参加して下さい					工 夫 そ の 他 の								
	B:意見の表現・交換		○															
	C:応用志向		○															
	D:知識の活用・創造		○															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		毎回、課された課題に取り組み、レポートとして仕上げてください (20時間)															
	事後学修		自身のレポートの見直しを行い、討論結果を反映させたものを改めて仕上げてください (25時間)															
	想定時間合計		45															
教科書		特になし																
参考書		講義中に適宜お知らせします																

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	講義中の討論内容や取り組み姿勢		60%	○	○	○							
	レポート課題		40%	○	○								
注意事項	ご自身の意見を持って討論に参加できるように、課題に取り組んでください												
備考	具体的な内容は、要望に応じて柔軟に決めていきたいと思っています												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の 実務経験	・ 経営コンサルタントとしての経験（人事戦略、業務改善、新規事業策定などのコンサルティング） ・ 経営者として事業経営の経験												
実務経験を いかした教育内容	文献調査だけで完結しない、実践的な内容を心がけます												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式						
KC40M206		経営戦略論特研Ⅰ (Management Strategies Advanced ResearchⅠ)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
コア科目	2	1、2	経済学研究科 博士前期	後期	木6	日本語		単独							
担当教員	氏名 仲本 大輔														
	E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714														
授業の概要	現代企業の経営に関わる諸問題を考察していくうえで、企業が進むべき基本的方向を定める経営戦略を知り、分析していくことは必要不可欠です。本講義では、文献輪読を通じて経営戦略の概念、経営戦略の見方などを習得することをねらいとします。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	習得した経営戦略論の分析枠組みにより、現実に行っている企業経営に関わる問題を考察できるようになることです。							○		○					
目標2															
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度 (計10)								9		1					
授業の内容															
1	ガイダンス														
2	経営戦略の概念														
3	ポーターの論文①														
4	ポーターの論文②														
5	ハメル&ブラハラードの論文														
6	バーニーの論文														
7	ミンツバーグの論文														
8	ブルーオーシャン戦略①														
9	ブルーオーシャン戦略②														
10	アーキテクチャ論①														
11	アーキテクチャ論②														
12	アーキテクチャ論③														
13	アーキテクチャ論④														
14	CSVに関する論文①														
15	CSVに関する論文②														
ラーニング目標	A:知識の定着・確認	○	随時、具体的な企業のケースを相互に出し合い、各回で取り扱う理論が					工夫その他の							
	B:意見の表現・交換	○	らどのように分析できるのかをディスカッションします。												
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修内容 と想定時間	準備学修	毎回、1本ずつ論文を読んでいきます。報告者を含め、全員読んでくるようにしてください(各回2h)。													
	事後学修	毎回、復習をしてください(各回1h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー等から該当する論文をコピーします。また、適宜、学術雑誌等から論文をコピーします。その際には、受講者の希望を考慮します。														
参考書	適宜紹介します。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点		80%	○									
	期末レポート		20%	○									
注意事項		・ 報告者以外の受講者も毎週、教材を読んでください。 ・ 初回のガイダンス時に印刷室で論文コピーの作業をするので、コピーカードを持参してください。											
備考													
リンク													
		URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式					
		マーケティング論特研Ⅱ (Marketing Theory Advanced Research Ⅱ)												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態				
選択	2	1,2	経済学研究科 博士前期	後期	金5	日本語		英語		単独				
担当教員	氏名 松隈久昭													
	E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680													
授業の概要	マーケティングの応用分析が中心となる。また、マーケティングリサーチ、ケース分析により、理解を深める。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1 マーケティング理論の応用ができるようになること。								○						
目標2 講義内容に関してディスカッションができるようになること。									○					
目標3														
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度 (計10)								7	3					
授業の内容														
1		Understanding Marketing Management												
2		Defining Marketing for the New Realities												
3		Developing Marketing Strategies and Plans												
4		Collecting Information and Forecasting Demand												
5		Conducting Marketing Research												
6		Creating Long-term Loyalty Relationships												
7		Analyzing Consumer Markets												
8		Identifying Market Segments and Targets												
9		Crafting the Brand Positioning												
10		Creating Brand Equity												
11		Addressing Competition and Driving Growth												
12		Setting Product Strategy												
13		Designing and Managing Services												
14		Introducing New Market Offerings												
15		Managing the Marketing Organization												
ラーニング	A:知識の定着・確認	☐	受講生はレポートを作成し、教員はそのサポートを行う。					工夫その他の	マーケティングに関する時事問題については、資料を配付する。					
	B:意見の表現・交換	☐												
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	英語テキストの内容について、事前学習を行うこと (30h)。												
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べる。また、それらの事例に関する現状と課題を示すこと (20h)。												
	想定時間合計	50												
教科書	(予定テキスト) Kotler, Keller, and Chernev, Marketing Management, Pearson 受講する方は、必ずテキストを入手してください。													
参考書	Malhotra, N. K., Marketing Research , Prentice Hall, 2003													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート		100%	○									
注意事項	場合によっては、遠隔授業にする場合があります。												
備考	初回のガイダンスに参加してください。 場合によっては、ZOOMでの授業（オンデマンドを含む）になる場合があります。												
リンク													
	URL												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
KC40M212		ベンチャー・技術経営論特研 (Venturing & Technology Management Advanced Research)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態					
コア科目	2	1.2	経済学研究科 博士前期	前期	金6	日本語				単独					
担当教員	氏名 渡邊 博子														
	E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702														
授業の概要	本授業では、日米のベンチャー企業や技術経営を対象に、取り巻く経済・産業・社会とその構造変化を把握し、ベンチャー企業や技術経営の歴史や現状、成長過程とその課題、ベンチャー企業を創出・育成したり、技術経営を深化させたりするための手段や方法、ベンチャー企業や技術経営からみた今後の社会経済システムなどについて考察していきます。また、企業の成長や経営の取り組みにかかわるイノベーションについても、その歴史や本質の理解を深めていきます。さらに、多くの事例研究を行うことでベンチャー企業や技術経営の実態および課題を明確にしていきます。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	ベンチャー企業や技術経営を取り巻く経済・産業・社会の構造やその変化を認識する。							○		○					
目標2	企業や技術経営、イノベーションに関する知識を修得する。							○		○					
目標3	ベンチャー企業や技術経営を創出・発展させていくための手法について具体的に考える。							○	○	○					
目標4	場合によっては、自ら起業するための準備ができるような力を養う。							○	○	○					
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)								4	2	4					
授業の内容															
1	ガイダンス(ベンチャー企業や技術経営を取り巻く経済・産業・社会)														
2	イノベーションの概念と重要性														
3	ベンチャー企業や技術経営の定義と歴史、アントレプレナーシップ、起業家像														
4	日本およびアメリカにおけるベンチャー企業および技術経営														
5	ベンチャー企業および技術経営のビジネス的側面(1)創出期														
6	ベンチャー企業および技術経営のビジネス的側面(2)発展期														
7	ベンチャー企業および技術経営の現状と課題														
8	ベンチャー企業および技術経営の促進方法(1)創出・育成														
9	ベンチャー企業および技術経営の促進方法(2)支援														
10	ベンチャー企業や技術経営における人材														
11	ベンチャー企業や技術経営の新たな側面														
12	日本のベンチャー企業・事例研究(1)モノづくり分野														
13	日本のベンチャー企業・事例研究(2)サービス提供分野														
14	アメリカのベンチャー企業・事例研究														
15	講義のまとめとベンチャー企業の今後の姿														
ラ イ ク ニ イ グ ブ	A:知識の定着・確認	○	ディスカッション、グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーション					工 夫 の 他 の	各テーマに関連した映像や新聞、雑誌、記事などの利用。						
	B:意見の表現・交換	○	、レポート、事例研究など。												
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(30h)													
	事後学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15h)													
	想定時間合計	45													
教科書	受講生との相談のうえ決定しますが、関連資料等は毎回配布します。														
参考書	加藤厚海・福嶋路・宇田忠司『中小企業・スタートアップを読み解くー伝統と革新、地域と世界ー』有斐閣、2023年。 鈴木克也編集『ソーシャルベンチャーの理論と実践ー理論と実践シリーズー』エコハ出版、2011年。 金井一頼・角田隆太郎編『ベンチャー企業経営論』有斐閣、2002年。 一橋大学イノベーション研究センター編『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年。 他 関連する白書類など含め授業の中で適宜紹介します。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業における報告および議論の内容や取り組み姿勢		50%	○	○	○	○						
	期末レポートなどの内容		50%	○	○	○	○						
以上のことをもとに総合的に評価します。													
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。												
備考	具体的な内容や進め方などについては、受講生の人数や要望に応じて柔軟に決めていきたいと思います。												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の 実務経験	シンクタンク研究員等												
実務経験を いかした教育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
KC40M217		国際経営論特研Ⅰ (International Business Studies Advanced ResearchⅠ)							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態				
選択	2	1,2	経済学研究科 博士前期	後期	金6	日本語		英語		単独				
担当教員	氏名 小宮山 知成													
	E-mail 内線													
授業の概要	本講義では国際経営論の中心的な学説を学ぶことを通じて、国家間の様々なギャップと国境を超えた企業の国際経営活動について理解を深めていく。終盤の講義3回は、前半の講義で修得した国際経営論に関係する研究論文(英文、事例研究)を輪読することを通じて、理論を発展的に理解し、応用する力を培う。													
具体的な到達目標														
DP等の対応(別表参照)								1	2	3	4	5	6	7
目標1	国際経営論に関する基本的な理論と知識を修得し、説明できること(＋基本的な専門用語を英語で表現できること)							○						
目標2	国際経営論に関する中心的な学説と企業における国際経営の実態とを関連付けて分析・説明できるようになること							○						
目標3	国際経営論に関する研究論文を精読し研究課題を理解した上で、批判的な考察や議論ができること							○						
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								10						
授業の内容														
1	ガイダンス													
2	国際経営戦略													
3	国の競争優位													
4	多国籍企業の歴史													
5	海外直接投資論													
6	プロダクトサイクル仮説と優位性の移転													
7	多国籍企業の組織デザイン													
8	トランスナショナル型組織													
9	国際的な活動の配置と調整													
10	海外子会社の役割													
11	グローバル・イノベーション													
12	国際パートナーシップ													
13	研究論文の輪読①(英文、事例研究)													
14	研究論文の輪読②(英文、事例研究)													
15	研究論文の輪読③(英文、事例研究)													
ラ イ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認	○	受講者が各講義での課題に対するミニレポートを(個人またはグループで)提出し、次回講義で担当教員が解答例と受講者からの補足質問を受ける。				工 夫 そ の 他 の	輪読の対象となる研究論文は、受講者の関心や意見、希望を踏まえて決定する。						
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	配付資料、教科書、参考文献、研究論文等にて授業当日の講義内容を予習する(15h)。												
	事後学修	配付資料、教科書、参考文献、研究論文等にて速やかに講義の復習を行う(15h)。講義で紹介した国際経営学の学説や知識を世の中の社会(企業)現象に重ね合わせて理解しようと努める(15h)。												
	想定時間合計	45												
教科書	大木 清広(著)「コア・適する国際経営」新世社、2018													
参考書	M.E.ポーター(著)「個にの競争優位」ダイヤモンド社、1990													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	ミニレポートまたは研究論文輪読向けの要約、及び授業への積極的参加・貢献（発言）	50%	○	○	○							
	期末レポート（5000字程度/A4サイズ4枚程度）	50%	○	○	○							
ミニレポート等では毎回の講義内容の定着・確認を図る一方で、期末レポートでは講義で修得したことを世の中の社会（企業）現象に重ね合わせて理解しようと日々努めて												
注意事項	国際経営学で修得したことを将来的に日社会で活用するためには、英語での理解も必要になるため、研究論文の輪読（英文、事例研究）を授業に採り入れている。一方、英語の研究論文精読には要約等の準備も含めて相当な時間がかかることを、終盤3回の講義については想定しておいてください。											
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の 実務経験	エネルギー・自動車・金融産業による官民事業会社創設・運営の経験、海外新事業立ち上げ経験、政府機関での海外勤務経験											
実務経験を いかした教 育内容	国際経営学の学説や理論を踏まえた事例研究（英文）の紹介を講義に適宜、採り入れる。											